

2 A たより

NO 2

No.1 のたよりの感想を、数人の方からさっそく頂きました。本当にありがとうございます。何か発信した後、それに対する反応が返ってくるということが、どんなに嬉しいことか改めて感じました。ひとり一人の感想やご意見は、間違いなくわたしに届いております。今後とも宜しくお願いします。

2年A組の生徒たちと、ほぼ1週間の生活をしました。どの生徒も、真剣な態度で授業や行事に臨みます。見ていてとても気持ちがいいです。ただ、力の足りない点も見えてきました。それは、コミュニケーション力といえるでしょうか、自分と相手との意見の交換の力です。わたしが、何か尋ねると、黙り込んでしまう生徒が多いですね。とっても簡単な質問にも、「わかりません」とか「考え中です」という返答をする生徒が多いです。このような返答の原因はいくつかあるのですが、ひとつは、“面倒なことは、『わからない』と言って済まそう”という思い。もうひとつは、過去に間違ったことを言って笑われたり、間違ったことは『言っちゃいけないんだ』という強い思い。そういう原因があるものです。これでは、そこに居ても、居ないのと同じです。静かなことが、いいのではないです。真剣なことがいいのです。静かな中にも、自分の思いをしっかりと伝える雰囲気、クラス全体のコミュニケーション力が上がらないといけません。

日曜日の授業参観は、そんなコミュニケーション力を出すトレーニングをしてみたいと考えています。

キャッチング

火曜日は、ほとんど授業を学級活動にして、学級委員や専門委員を決定しました。学級委員は、どの人も立候補する人がいなく、投票で決めました。投票数の多かった、Dくん、Eさんと呼んで結果を言います。決して、自分の本意ではなかった二人ですが、受け入れて協力してくれるという言葉に、少し安堵します。専門委員会は、学級委員とは違って、スムーズに決まっていきました。後期は、この中から専門委員長や生徒会役員が出ることでしょう。

残った時間は、『学級の誇り』と題して、1年間このクラスで生活するためのルールをみんなで考えます。

まずは、“人の気持ちを嫌にさせる人の行動”と“気持ちよくさせる人の行動”を、付箋紙に書き出させて、徹底的に書かせまくりをさせます。いろんな意見がでてきます。「シカトする人」「KY（空気読めない）な人」……。やはり“気持ちを嫌にさせる人”の方が圧倒的に多く出てきますね。

「人間は、長所を見つけることよりも、短所を見つける方が簡単なんだよ。」と教えると、よ

うやく“気持ちよくする”方も出てきたようです。「誰とでもあいさつする人」「相談にのってくれる人」……。たくさん出てきたものを、グループに分け、クラスとしてのルールを2つか3つに絞ることにしました。

すべて話し合い活動を班で行っていきます。

一方的に話す人。黙って自分の意見を言わない人。机に突っ伏して話し合いに参加しない人。すべてがすべてではないのですが、見ているとそんな場面も瞬間的に現れます。

なんとか、全ての班からでてきた中から、いろいろつなぎ合わせて、2つのルールが完成しました。

- ・一人一人が強い心を持ち、男女問わずに助け合うクラス。
- ・誰にでも思いやりを持ち、あいさつができるクラス。

二つとも、その根っこにあるのは、「気持ちを嫌にさせたり、気持ちよくさせる行動を考えた結果なんだよ。」と注釈をつけました。

あとは、今決まったルールをパソコンで印刷し、ひとりひとりにはさみで切ってもらい、パズルのように大判用紙に貼って行って掲示物の完成です。

“コミュニケーションは言葉でするもの”と考える人が多いようですが、実は言葉で相手に伝える力は、全体の8%ぐらいにすぎないと、ある学者が言っています。じゃあ、他の92%は何か？

それは、顔の表情や声の大きさ、目つき、服装、足音、そんなものから受けるコミュニケーションなのだそうです。

たしかに、わたしなんかも、我が子の様子は、言葉で聞き取ることよりも、言葉以外で理解することが多いですね。

二階に上がっていく息子の足音ひとつで、心の様子がわかったり、朝起きた瞬間の娘の表情で、もうすでにどんな気持ちかわかったりするんです。このようなコミュニケーション法をノン

バーバルコミュニケーションって言ったりします。立ち居振る舞いとでもいいでしょうか。

言葉よりも、言葉以外のメッセージが、人間どんなに大きく相手に影響を与えるか、意外と大人でも知らなかったりします。言葉以外のものに影響され続けて、私たちは日々生活しているということです。いじめだって、言葉なんかよりも、言葉以外で相手を傷つける例がほとんどです。

そう考えると、人間という動物は、言葉や文字が発達していくほど、本来のコミュニケーション力が失われていくのかもしれませんが。日常、メールでカチカチしている子ほど、人と交われなく悩むんです。

コミュニケーション力がある人って、おしゃべりじゃないけど、いつも柔らかい表情をしているし、なんだか困っていると、さりげなく助けてくれる人が多いんですね。

一人ひとりが切った文字を、大判用紙にのりで貼って完成した後も、Nさんと、Hさん二人は、まだ、床に膝着いて何か書いています。

「なんだか、このままだと寂しいから・・・」と言って、二人は、クラス全員の名前を、ルールの文字の周りに書き並べていってくれたのでした。お陰で、教室に貼っても、全然恥ずかしくない作品になりましたよ。

最後に、男子に、脚立を持って黒板の上に掲示してもらいます。作品はなかなか大きくて、大変そうです。

「貼りにつくー（にくい）。」と男子生徒。あまりにも大きく長いので、脚立から、用紙が床に垂れ下がります。

このままでは破けそうと思った瞬間に、さっと、Hさんが、駆け寄って、脚立の上から垂れ下がっている用紙の端を持って、上にかざしてくれました。

コミュニケーションの見事なキャッチングです。

ご意見・ご感想をお願いします。

[戻る](#)